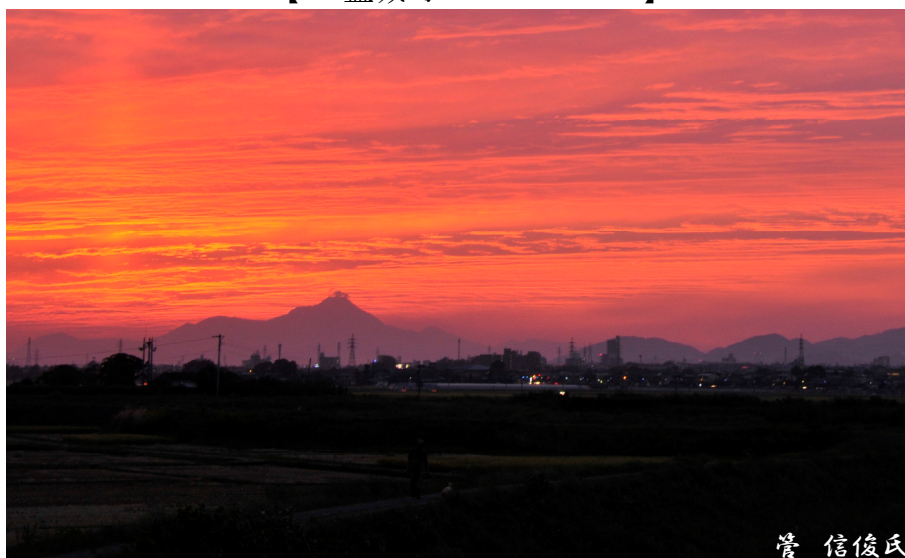


【7 益城町 Mashiki Town】



菅 信俊氏

町内の国道 443 号線から

益城町では、町の中心部を流れる木山川や秋津川などの緑川水系の流域や、北部の高遊原(たかゆうばる)台地に広がる阿蘇くまもと空港、南部にそびえる飯田山などから、熊本平野越しに“東面の雲仙岳”が眺望できます。

町の中心部に鎮座する木山神宮は、平安時代末期の創建と伝えられていますが、当神宮と熊本市内最古の健軍神社、雲仙岳はほぼ一直線上に並んでいることが指摘されています(参考:<http://tizudesiru.exblog.jp/14702222/>)。神宮の参道は、雲仙岳・健軍神社の位置する概ね西方へ向かっており、健軍神社と同様、創建にあたって雲仙岳を目印とした可能性が示唆されます。この雲仙岳～健軍神社～木山神宮のラインは、さらに、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)の一部ともなっています。緑川水系流域や阿蘇くまもと空港、飯田山からは、阿蘇山も眺望することができ、上記の大三角形を視覚的にイメージすることが可能です。

緑川水系を流れる水は、やがて有明海に流れ込みますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を緑川や白川などが日々流し込んでいもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

幕末・明治に活躍した思想家・横井小楠は、本町に隣接する熊本市沼山津に家塾“四時軒”を構え、坂本龍馬らとも語り合ったとされますが、四時軒は阿蘇山と雲仙岳が眺められる場所に建てられています。婦人の横井つせ子の実家・矢嶋家は、本町の北東部の惣庄屋で、つせ子の兄や姉妹の配偶者も門下生として小楠に師事しました。つせ子を含む四姉妹が、女子教育や婦人解放運動に尽力した様子は、矢嶋家旧家を移築した“四賢婦人記念館”に展示されていますが、記念館の裏の高台にある“辻ヶ峰公園”からは、空気が澄んでいれば雲仙岳が眺望可能です。つせ子の甥で、明治～昭和に活躍した思想家・徳富蘇峰は、この矢嶋家で誕生し、後に水俣に移りましたが、彼は阿蘇山や雲仙岳を愛でて、漢詩に詠んでいます(※水俣市のページ参照)。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、益城町内を旅してみませんか？

●益城町の観光情報はこちら↓

益城町 http://www.town.mashiki.lg.jp/map/pub/default.aspx?c_id=49

益城町商工会 <http://mashikishoko.jp/modules/pages/index.php?cid=3>



西尾 隆一氏

阿蘇くまもと空港から(右は金峰山)